



# 河小だより

四日市市立河原田小学校

第15号 令和3年11月15日

11月7日(日)は立冬でした。暦の上でも「冬」ですし、気温も平年並みに下がってきました。特に朝夕の気温が下がり、かなり寒く感じることも増えてきました。日中、太陽の日差しが当たるところでは暖かいので、寒暖差で体調を崩さないよう気をつけてください。特に6年生は10日後に修学旅行が控えていますので、十分気をつけてください。校内で子どもたちの様子を見てみると、朝は暖かい上着を着て登校してくる子がずいぶん増えてきました。しかし、休み時間はその上着を脱ぎ、半そでで走り回る子もいます。そのエネルギーあふれる姿を見て、こちらも元気をもらっています。

11月12日(金)時点では、県内のコロナウイルスの新規感染者数が6日連続で0人、四日市市においては12日連続で0人と激減しています。日本全体を見てもずいぶん落ち着いてきています。このままコロナが終息して欲しいと強く願っていますが、12月以降、第6波がやってくるのではないかという見方もあるようです。また、世界に目を向けるとまだまだ多くの人が新規に感染している状況が続いています。油断したり、安心しきったりはできませんが、感染症対策を行いながら、できる限り、教育活動を進めていきます。ご理解とご協力をお願いします。

## ● こにゅうどうくんが河原田小学校にやってきました!

11月5日(金)の給食の時間に「こにゅうどうくん」が河原田小学校にやってきました。これは、四日市市の観光交流課の企画で、四日市の子どもたちにとって少しでも明るい話題となるよう、また、四日市を知り、四日市をより好きになってもらえるよう、B級グルメのコミック本(そこはかとなく味わい深いB ~さすらいの翔~)をこにゅうどうくんが各小学校を訪問し、贈呈してくれるというものでした。

校長室で6年生の代表委員3名がコミック本を受け取った後、こにゅうどうくんが全教室を回りました。ちょうど給食の配膳のころから食事中という時間帯でした。昼食時間帯ですので、「静かにする」「むやみに立ち歩かない」などの約束事がありましたが、河原田小学校の子どもたちは、自分の席で静かに、こにゅうどうくんをお迎えしました。

低学年はもちろん、高学年の子どもたちも、「声を出したい」「こにゅうどうくんに近寄ってタッチしたい」などの気持ちがあったでしょうが、それをぐっと抑えて、全力で手を振って歓迎しました。その表情は、とびっきりの笑顔でした。その様子を見ていた市役所の担当者の方は、「河原田小学校の子どもたちは、すごいですね。静かに、すごくいい笑顔で、全力でお出迎えしてくれて…。その様子を横で見ていると、ジーンと胸が熱くなりました」とおっしゃってくださいました。私も一緒に教室を回りましたが、全く同じ感想を持ちました。

誘惑や欲求に負けないよう、自分の思考や行動を制御する力を「セルフコントロール能力」といいます。これは、集団生活や日常生活をよりよくしていくためにはとても大切な能力です。こにゅうどうくんの来校により、子どもたちのすてきな姿を見ることができ、とても感激しました。【11月5日の学校HPもご覧ください】



## ● 11月9日は146回目の創立記念日でした

河原田小学校は大変歴史のある学校です。本校の創立は明治8年（1875年）で、現在の河原田地区市民センターにあった旧正福寺内にあった「人民共立川原田学校」（川原田村の児童21人）と、大治田の説教場にあった「人民共立大治田学校」（大治田、追分、泊村の児童40人）がもとになっています。翌、明治9年には旧吉祥寺内に「内堀学校」（川原田、貝塚、内堀、川尻村の児童14人）が設立され、明治13年には「公立川原田学校」と改称されました。また、新たに「大河内学校」（内堀、川尻、大治田）が設立されました。明治16年には小古曾村地内に「良田学校」が設立され「大河内学校」は閉校となりました。明治18年（1985年）に河原田村に村名が変更されたことに伴い「河原田小学校」と改称されました。その後、法律の変更等で何回か改称され、昭和29年に河原田村が四日市市に合併したため、現在の「四日市市立河原田小学校」となりました。現在の河原田小学校は伊勢街道の東側にありますが、創立当時は伊勢街道の西側にあったようです。右の写真は昭和38年（1963年）の卒業アルバムに載っているもので、その年に建てられた校舎のようです。瓦屋根の校舎で、ある意味新鮮に感じます。現在の子どもたちが使っている校舎は平成25年（2013年）に新築され、今年で8年目となります。



## ● 家庭の読書推進期間

11月2日発行の「河小だより14号」でもお知らせしましたが、11月15日（月）～25日（木）までの約2週間を、読書推進期間としています。学校でも「シャッフル読み聞かせ」として、15日と22日に、担任ではない教員が朝の会で「読み聞かせ」を行います。普段は関わりのない先生による読み聞かせで、子どもたちに新しい世界が広がってくれることをねらった取組です。ご家庭でも、お子さんの読書習慣の定着に向けて、読み聞かせや読書の時間の設定にご協力ください。

### お願い

- 【日の出が遅いので…】登校時、夏の間はかなり高く昇っていた太陽も、冬になると低い位置で輝いており、東の方角を見るととてもまぶしく、目を細めてしまうことがよくあります。車を運転していて、あまりのまぶしさに歩行者や対向車を見逃し、ヒヤッとした経験のある方もみえるのではないのでしょうか？ 子どもたちには冬の良く晴れた朝は運転手さんから見にくいので、周りをよく見ながら、注意して登校するよう指導しています。ご家庭でも交通安全についてお話しください。
- 【日没が早いので…】これから日没時刻がどんどんと早まっています。12月初めには4時41分になり、あっという間に暗くなります。暗い中での子どもだけの外出は、交通事故や不審者に遭遇しやすくなるなど、危険と出会う可能性が大きくなります。学校でも暗くなる前にお家に帰るよう指導しますが、ご家庭でも早めに帰宅するようお話しください。
- 【夜が長いので…】お子さんとゆっくり話をする時間を持っていただいたり、スキンシップの時間をとっていただいたりするなど、お子さんと触れ合う時間を十分に取っていただき、「安心という心の土台作り」をお願いします。下の記事が目にとまりましたので、紹介させていただきます。

11月5日（金）中日新聞 「子どもってワケわからん！」より

～（前略）～ 「子どもは三密でこそ育つ」というのが私の“想い”ですが、コロナ禍ではなかなか難しいのです。ただ、家庭内では、今まで以上に親子でスキンシップを含めて触れ合ってほしいと思います。抱っこしたり、一緒に遊んだり、時間や場所を工夫して心身ともにたくさん触れ合ってほしいものです。「もう大きいのでいやがります」という親御さんもいますが、ホントは抱っこしてほしいのにながまんしている子どもも意外といえるのです。

教室でも、低学年なら自然と手をつなごうとする子や、泣きながら顔をこすりつける子はいくらでもいます。子どもたちは触れ合うことで安心するのです。「大丈夫？」と声をかけながら、やさしく親に触れてもらうのは、安心という心の土台をつくります。土台がしっかりしていれば、チャレンジする勇気も出ます。きっと、上手に飛び立つことができると思います。

（育児雑誌編集者 岡崎 勝氏）